2017 年 1 月

Global Classmates 2017 ご参加への招待

～いつでもつながる外国の友達、教室で育むグローバルな感性～

Kizuna Across Cultures

募集要項：

参加要件：a～d の各要件を満たす高校の授業。（部活動や課外活動も認められますが、より積極的な交流を促進するため、授業での参加を推奨しています）

a. 週に１時間以上、Schoology※を通じた交流活動を行うこと。
（生徒ひとり当たりの時間。授業などオフィシャルな時間中に活動することを推奨）

b. 担当する教師と生徒が週に１回以上、対面で交流を指導・サポートすること。

c. 生徒が映った写真やビデオのコンテンツを Schoology 上で利用することに同意すること。

d. 生徒 2 名ごとに、1 台以上のコンピュータが利用でいること。

申込方法：下記専用 URL より直接お申し込みください。

https://goo.gl/forms/PqsiukV9BnKz7Qgy1

申込〆切：

２０１７年３月１７日（金）

申込後のプロセス：

４月上旬までに個別に連絡を取らせていただき、４月に電話インタビューを行います。採択校の確定は５月中旬を予定しています。４月１５日までに電話インタビューの連絡が来ない学校は申込み手続きが未了の可能性がありますので、お手数ですが下記申込窓口までご確認下さい。

HP・お問合せ：

公式 HP　http://kacultures.org/
よくある質問　http://kacultures.org/faq
Kizuna Across Cultures 申込窓口（Japan@KACultures.org）

※ Schoology（https://www.schoology.com/）は本プログラムの交流に利用する教育関係者専用の登録制 Website です。地域によってはアクセス制限や速度遅延の可能性がありますので、予めアクセスできることをご確認下さい。

ごあいさつ

我々Kizuna Across Cultures は、ワシントン DC に住む JET プログラムの同窓生および日本人有志が、東日本大震災を機に日本のために何かをしたいとの思いを形にしようと立ち上げた NPO 団体（米国政府認定 NPO501(c)(3)取得）です。アメリカで日本語を学ぶ外国人の高校生達と日本の高校生達をセキュアな教育用 SNS でつなぎ、海外のクラスメートとの交流を通じて表現力、語学力、グローバルな感性などを育むプログラム、Global Classmates を提供、コーディネートしています。

多くの方々のご支援をいただき、Global Classmates は設立から５年で、約５０００名に提供されるプログラムとなりました。第６期となる 2017 年度は日本から３０校を募集予定です。皆様方の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

Global Classmates の紹介

このプログラムでは、９月から翌２月までの半年間、日米各２０～３０名ほどの子供達が、語学や表現などの授業、国際交流の部活動などの場を利用して、継続的にメッセージや写真、ビデオのやり取りを行います。日本とアメリカの学校は１校ずつペアとなります。多くの学校は授業の１クラスを選び、日米のクラス同士で交流しています。

Global Classmates を使った交流では、先生は例えば生徒からのこんな質問に答えながら、彼ら／彼女らの積極性を引き出して一緒にコミュニケーションを楽しんでいきます。

例１：「先生、Katie に日本の紅葉のきれいさを伝えたいのですが、どう表現したらよいでしょうか？」

例２：「先生、こけしを紹介したら Christine から"It's definitely kind of cute in a very unusual way!"と返事が返ってきました。かわいいと言ってくれているのだとは思うのですけれど、正確にはどのような意味なのでしょうか？」

例３：「先生、アメリカの子達に送ったバレンタインのプレゼントを英語で説明するビデオを撮りたいのですが、どう説明したらいいですか？」

文章のやり取りだけでなく写真やビデオなども用いることで、理解や親近感を増した、よりリアルな交流体験を行っています。また締めくくりには Video Koshien と銘打ち、学校紹介ビデオなどのコンテストが行われ、各校が楽しみながら英語ビデオを制作し、表現力やプレゼンテーションを競い合います。文部科学省や米国大使館などの方々に審査員となっていただき、素晴らしい作品の中から優勝作品を表彰しています。

（参考）Video Koshien 入賞作品の紹介
http://kacultures.org/global-classmates/video-koshien

プログラムへの応募にむけて

必要なものは、先生方の熱意と、生徒達の外国の友達への好奇心、それらをサポートする PC 環境と週に 1 時間以上の活動時間（先生が生徒と一緒に画面に向かい、互いを知り合うことへの関心やコミュニケーションへの意欲を刺激し、活発な投稿や返信を引き出す時間）です。

生徒さん達に長く付合える外国人の友達を作ってあげたい、新しい体験をさせてあげたい、という先生の想いがとても大切です。また、ペアを組む相手校の先生も熱心に参加されますので、日米で密にコミュニケーションを取り合っていただくことも必須となります。日米、両方の学校の先生になったつもりで接していただくことが大切です。主なコミュニケーションの手段は E メールになりますので、プログラム期間中はきちんとメールをチェックできる体制を取っていただくことが必要です。（メールを受け取ってから原則 2 日以内での返信をお願いしています。）

興味を持っていただける学校には、日米のスタッフがメールやお電話、テレビ会議を通じて、活動の詳細や、プログラム参加校を支援するコーディネータ制度などをご紹介いたします。可能であれば直接お会いする機会も持ちたいと考えています。

自国にいながら同世代の学生たちと異文化交流ができる場、また言語習得を促す一つのツールとして、ぜひご活用いただければ幸いです。積極的なご参加の声をお待ち申し上げます。

KAC コーディネータによる交流サポートについて

Global Classmates は、SNS を使った新しい形の英語教育です。進め方については細かなノウハウが必要となります。そこで KAC では、SNS の使い方からディスカッションテーマの設定まで、コーディネータが丁寧にサポートいたします。過去の交流事例にもとづき、学校ごとのニーズとレベルに合わせ、先生方と一緒になってプログラムをカスタマイズしていきますので、学校ごとに適切なやり方で Global Classmates に取り組むことができます。

Global Classmates に参加した生徒・先生の声

これまでに参加した生徒へのアンケート結果ではもっともっとこのプロジェクトをやりたい！との声が多く寄せられています。「日本語を頑張って勉強している相手の方々をみて、自分も英語をもっと勉強したいと思えるようになった。」、「英語でのやり取りができて楽しかったし、日本のことについて興味をもってくれて嬉しかった」、「自分で 1 から英文を作ろうとするようになった。」といった声が聞かれ、留学に興味を持つ生徒の割合も大きく増えています。

参加した先生からは、「英語の授業を英語で行うことが基本となったことから、生徒は使える英語の自由度が広がった。この”Global Classmates”では生徒は間違いを恐れず、自由に単語や構文を使って英語で表現するので、まさにその流れを汲むものだ。教師にとっても発見の連続で、いつの間にかこんな表現を生徒は使えるようになっていたのか、こんな単語を知っているのかなど、毎回毎回がとても楽しかった。」、「テストで偏差値が上がった生徒が見られたこともすごいが、それ以上に採点していて白紙の答案用紙がぐっと減ったことに驚いている。」などの感想をいただいています。

アメリカ側の参加校からも同様に好評をいただいており、アメリカでは全ての学校で授業の一環として Global Classmates を採用いただいています。

先生の声

1. 北海道知内高校　野村くみこ先生

"英語を使うことや国際交流に対する「おっかなびっくり」の姿勢は払拭され、生徒は自分の気持ちを英語で表現したいと強く思うようになりました"

「Global Classmates (グローバル・クラスメート)」は、本当に素晴らしいプログラムです。本校生徒は、地域の特性上、外国人とほとんど交流する機会がありません。しかし、Global Classmatesにおける米国の高校生とのSNS上の交流やプレゼントを贈り合うプロジェクトOmiyage Exchangeを通して、国際交流の楽しさや感動を十分に味わうことができており、高いモチベーションでGlobal Classmatesに取り組んでいます。英語を使うことや国際交流に対する「おっかなびっくり」の姿勢は払拭され、生徒は自分の気持ちを英語で表現したいと強く思うようになりました。生徒自ら積極的に、表現を調べたり、授業以外の時間にも教員に尋ねたり、相手校の生徒の英文を真似して英文を書いたりするようになり、このような経験を重ねていくうちに、自信を持つようにもなりました。積極的に英語を使い、楽しんでいる生徒達の様子を見て、英語教師としての喜びを日々感じています。
私自身、はじめは不安もありましたが、相手校の先生と専属のスタッフの方と3人のチームワークで取り組んでいき、さらにKACスタッフの方のしっかりとしたサポートもあるため、うまくやっていくことができています。相手校の先生とスタッフの方とも情報交換を通して仲良くなり、私たちの間に絆が生まれています。また、生徒達とGlobal Classmatesの楽しさと感動を共有していくうちに、生徒達と私との絆もより強くなってきました。まさにKizuna Across Culturesです。Global Classmatesに参加することができて、本当に良かったといつも感謝しています。

2. バージニア州 サウス・カウンティ高校　ニコール・メイフィールド・鶴田先生

"通常の授業では苦労している生徒たちがもっとも積極的に書き込んでいたことは嬉しい驚きだった。"

Global Classmates に参加して3年目になりますが、生徒にとっても私にとっても、とてもいい経験になっています。大半の生徒にとって、Global Classmates が教室以外で日本語を使う「唯一」の機会ですが、生徒からしたら、世代が上の私から学ぶよりも、ずっと楽しいのではないでしょうか。特に良かったと思うのは、成績優秀生ではなく、むしろ「授業で苦労している生徒たち」が誰よりも Global Classmates を楽しんでいるということです。初めは私自身、一部の生徒たちにとって Global Classmates は内容が難しすぎるのではないか、楽しめないのではないか、と心配でした。けれども実際はまったくの逆で、そういった生徒たちが一番よく書き込み、写真や動画を投稿してくれているのです。日本語や日本文化に対する興味や情熱を「表現する」というのは、通常の授業ではなかなか生徒に経験させてあげられないことですが、Global Classmates に参加すればそれが可能になります。これは私にとっても本当に嬉しい驚きで、改めて Global Classmates に参加させて頂いて良かったと感じています。

3. 埼玉県立伊奈学園高校　金田智先生

"普段の授業では絶対に使われない表現や言い回し等に触れることができる"

今年初めて「Global Classmates (グローバル・クラスメート)」に参加させていただきましたが、生徒も私も本当に素晴らしい経験をさせていただきました。始めはPC等の施設の関係や、こちらの技術的な面で不安も多くありましたが、Kizuna Across Cultures (KAC)のコーディネーターの方の協力でスムーズに交流をスタートすることが出来ました。また先生向けのプログラムの説明ビデオやマニュアルもしっかりしていたので、非常に取り組みやすかったです。2学期の始めにKACが生徒向けに作成したプログラムの主旨や楽しみ方を説明するビデオを生徒に見せて、「これからこのGlobal Classmatesに取り組みます」と伝えた時の、生徒の興奮した様子が本当に印象的です。生徒にとって実際のアメリカの高校生とやり取りをすることは、本当に刺激的なことであり、さらに英語と日本語の両方を使って交流することが、お互いの学習に大いに役立ったと思います。普段の授業では絶対に使われない表現や言い回し等に触れることが出来、生徒もそれに対して返信をすることで、お互いの生徒が楽しくやり取りをしながら、実は多くを学んでいるというのが、教えている側の印象です。
そして10月末のプレゼントを相手校の生徒と贈り合うプロジェクトOmiyage Exchangeでは、お互いのプレゼントを開けたときの様子を動画で共有することで、実際にオンラインで交流している生徒の様子が見られて、生徒の目がさらに輝いていました。そこからさらにオンラインへの投稿の数も増え、生徒はこちらの指示を待たずに、それぞれのパソコンや携帯電話から、それぞれの時間で投稿するようになりました。
交流相手校の先生とのやり取りも楽しく、お互いに知恵を出し合いながら、良いアイディアは共有しながら進められたことも、非常に良かったと思います。
今年は初めての取り組みだったので、バタバタとしたこともありましたが、このGlobal Classmatesをもっと上手く授業の中に組み込みながら、さらに計画的なものにするため、来年度も是非チャレンジさせていただきたいと考えています。

（出所）KAC Website から抜粋

生徒の声

太田　愛理　(北海道知内高等学校)

同じ年くらいの子たちと、国や人種は違えども、やはり気持ちを通じ合えることの楽しさを感じることができました。Omiyage Exchangeプロジェクトでも、相手が私のためにわざわざプレゼントを選んでくれたものだと思うと、とても嬉しく思いました。Video Koshienでは、クラスの皆と何か一つのものをつくるという作業そのものが、私たちに絆を与えてくれたような気がします。このプロジェクトのおかげで、授業にあまり興味を持つことができなかった私が、いつの間にかこの授業を楽しみに思うことができました。日本ではなかなか英語を使う機会のない私たちには、とても貴重な体験だったと思います。

ロビー・ジュリガ　(ミシガン州グローブス高校)

Global Classmatesへの参加は、これまでの学生生活の中で最も豊かな語学経験の一つといえます。このプログラムには、色々な語学レベルの生徒たちが、評価を気にせず交流に没頭し、最大限に楽しめる環境がありました。それぞれが自由にコメントを投稿できるオープンフォーラム形式だからこそ、異なる文化と語学の交流を通じた深いレベルの教育が達成されたように思います。相手校と自分のクラスの生徒達のコメントを読み、返事をすることで、自分の語学力が伸びたことは非常に有益でした。一番の思い出は、家庭の文化を日本の生徒たちと比較しあったこと。この一見カジュアルな会話から、いかにお互い学び合い、教え合うことができるのかに気づきました。

松本　陶矢　(京都府立紫野高校)

日本語を勉強しているアメリカの生徒たちと話すので、英語で話すのが楽でした。彼らの日本語も完璧でないので、自分の英語の間違えなどを気にしなかったです。正しい文法を使うことよりも、「伝える」ことが重要なんだと感じました。

エヴリン・クリスティ(ミシガン州グローブス高校)

Global Classmatesはとっても楽しかったです。日本語のコミュニケーション能力や文法が上達したし、地球の反対側に住む子たちが何に興味を持っているかを知るのは面白かったです。日本の生徒達の日常生活について知ることは、自分自身の文化や社会への視点を考えることにもつながりました。なぜなら、日本の生徒たちにとって当たり前なことも、アメリカの文化ではすごく変わったことだったりもするからです。プログラムの最高の思い出の一つは、好きな音楽やテレビ番組についての会話です。日本の学生達が好きな番組と良く似た番組がアメリカにもあることが面白いと思いました。また、初めはお互い敬語で話していたのが、仲良くなっていくうちにもっとカジュアルで気軽な会話になっていったのがよかったです。

（出所）KAC Website から抜粋

Kizuna Across Cultures の詳細は以下でもご覧いただけます。

公式 HP　http://www.kacultures.org/

Facebook　https://www.facebook.com/kizuna.across.cultures